

# 都立光丘高等学校 令和6年度(1学年)教科

教科：国語 科目：言語文化

対象学年組：第1学年 1組～6組

使用教科書：(新編 言語文化 大修館書店)

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようとする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようとする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞 書 読	評価規準			知 思 態 配当 時数		
			○	○	○			
単元1 古文に親しむ 【知識及び技能】 〔(1)〕言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 〔(2)〕時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 〔B(1)〕作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 〔B(1)〕文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 本文を音読し、書きやリズムを味わう。 本文をおよその内容をとらえる。 古文の特徴を理解し、古文に親しむ態度を養う。 教材 「いろは歌」 古文の言葉と仮名遣い 「児の若ら寝」（『宇治拾遺物語』） 「十二の『子』文字」（『宇治拾遺物語』） その他閲覧資料 ・一人1台端末の活用 等	○	【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 〔(1)〕 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 〔(2)〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表されているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 〔B(1)〕 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 〔B(1)〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉の働きや古典の言葉とのつながりを理解したり、作品に表れているものの見方や考え方を捉え文章を理解したり、文章の構成や展開、表現の特色について評価したり、より多くの見方や考え方について理解したり、より深い取り組みを行なう中で、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	8	
定期考查			○	○	○	1		
単元1 古文に親しむ 【知識及び技能】 〔(1)〕言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 〔(2)〕時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 〔B(1)〕作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 〔B(1)〕文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 本文を音読し、書きやリズムを味わう。 本文をおよその内容をとらえる。 古文の特徴を理解し、古文に親しむ態度を養う。 教材 「阿蘇の史、盗人にあひてのがること」（『今昔物語集』） その他閲覧資料 ・一人1台端末の活用 等	○	【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 〔(1)〕 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 〔(2)〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表されているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 〔B(1)〕 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 〔B(1)〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉の働きや古典の言葉とのつながりを理解したり、作品に表れているものの見方や考え方を捉え文章を理解したり、文章の構成や展開、表現の特色について評価したり、より多くの見方や考え方について理解したり、より深い取り組みを行なう中で、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	4	
定期考查			○	○	○	1		
1学 期	単元1 古文に親しむ 【知識及び技能】 〔(1)〕言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 〔(2)〕時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 〔B(1)〕作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 〔B(1)〕文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 本文を音読し、書きやリズムを味わう。 本文をおよその内容をとらえる。 古文の特徴を理解し、古文に親しむ態度を養う。 教材 「阿蘇の史、盗人にあひてのがること」（『今昔物語集』） その他閲覧資料 ・一人1台端末の活用 等	○	【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 〔(1)〕 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 〔(2)〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表されているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 〔B(1)〕 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 〔B(1)〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉の働きや古典の言葉とのつながりを理解したり、作品に表れているものの見方や考え方を捉え文章を理解したり、文章の構成や展開、表現の特色について評価したり、より多くの見方や考え方について理解したり、より深い取り組みを行なう中で、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	5
定期考查			○	○	○	1		
2学 期	3. 物語の広がり 【知識及び技能】 〔(2)〕古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 〔B(1)〕文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確に捉えること。 〔B(1)〕作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 作品や作者について整理する。 本文を音読し、大意を把握する。 歌の歌詞を読み取り、登場人物の心情を理解する。 歌の修辞技法と各章段で歌の果たしている役割を理解する。 教材 「神無のころ」（兼好『徒然草』） 「うつくしきもの」（清少納言『枕草子』） その他閲覧資料 ・一人1台端末の活用 等 作品や作品の舞台、時代背景について調べる。	○	【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 〔(2)〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確に捉えている。 〔B(1)〕 ・「読むこと」において、作品や文章に表されているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 〔B(1)〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現を理解したり、文章の種類を踏まえて内容や構成を的確に捉えたり、作品に表れるものの見方や考え方を捉え内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	12
定期考查			○	○	○	1		
3. 物語の広がり 【知識及び技能】 〔(2)〕古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 〔B(1)〕文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確に捉えること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 作品や作者について整理する。 本文を音読し、大意を把握する。 歌の歌詞を読み取り、登場人物の心情を理解する。 歌の修辞技法と各章段で歌の果たしている役割を理解する。 教材 「木曾の最期」（『平家物語』） 芥川龍之介『羅生門』 その他閲覧資料 ・一人1台端末の活用 等 作品や作品の舞台、時代背景について調べる。	○	【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 〔(2)〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 〔B(1)〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現を理解したり、文章の種類を踏まえて内容や構成を的確に捉えたり、作品に表れるものの見方や考え方を捉え内容や構成を的確に捉えたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	10	
定期考查			○	○	○	6		
1. 漢文に親しむ 【知識及び技能】 〔(2)〕我が国の言語文化の特質や我が国と文化と外国の文化との関係について理解すること。 〔(2)〕古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 〔B(1)〕作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つこと。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 漢語の構造を考える。 漢語を書き下し文に改める。 返り点の種類と用法を確認する。 例文を書き下し文に改め、現代語訳する。 再認文字について理解する。 教材 訓讀のきまり、格言、再認文字 (学習ノート、デジタル教科書) その他閲覧資料 ・一人1台端末の活用 等 格言や漢詩、諸子百家について調べる。	○	【知識・技能】 ・我が国の言語文化の特質や我が国と文化と外国の文化との関係について理解している。 〔(2)〕 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 〔(2)〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 〔B(1)〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・我が国の言語文化の特質や文化との関係を理解したり、古典を読むために必要な訓讀のきまりなどを理解したり、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のもの	○	○	○	6	

	定期考查			の見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた、粘り強い取り組みを行う ホーリー・ヒルの歴史と文化	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	2. 現代に生きることは 4. 漢文を楽しむ 【知識及び技能】 〔(2)②〕 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓詁のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 〔B(1)④〕 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 〔B(1)⑥〕 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つこと。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 各章を書き下し、現代語訳する。 当時の思想を理解し、現代的意義について考える。 ・教材 「守株」（韓非『韓非子』） 「五十歩百歩」（孟軻『孟子』） 「完璧」（曾先之『十八史略』） その他閲覧資料 ・一人1台端末の活用 等 作者や作品の舞台、時代背景について調べる。	O	【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓詁のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔(2)②〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。〔B(1)④〕 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。〔B(1)⑥〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・古典を読むために必要なきまりなどを理解したり、作品に表れるものの見方や考え方をとらえ、内容を解釈したり、作品の内容や解釈を踏まえ自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。			17
3 学 期	詩歌の調べ 【知識及び技能】 〔(2)②〕 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓詁のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 〔A(1)④〕 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。 〔B(1)④〕 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 漢詩、俳句などの形式や特徴について確認する。 作品を音読みし、リズムや言葉の響きを味わう。 作品の形式、作者、時代背景などを確認する。 作品の内容を理解し、表現の特色などをつかみ、鑑賞する。 それぞれの季節をテーマとした作品群から、その季節の詩歌がもつ言語文化としての傾向や特徴を考える。 ・教材 漢詩、俳句 春のうた／夏のうた／秋のうた／冬のうた (学習ノート、デジタル教科書) その他閲覧資料 ・一人1台端末の活用 等 作者や、他の作品についても調べ、創作する。	O O	【知識・技能】 ・古典を読むために必要なきまりや訓詁のきまり、古典特有の表現などを理解している。〔(2)②〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現のしかたを工夫している。〔A(1)④〕 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。〔B(1)④〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・古典を読むために必要なきまりや古典特有の表現を理解したり、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現のしかたを工夫したり、作品に表れるものの見方や考え方をとらえ内容を解釈したりすることに向けた、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。			3
	定期考查				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
							合計 70